

東部循環市立病院線（小和田・ 松浪コース）の運行について

①ルート変更の概要

●辻堂駅西口の移設

- ・平成25年12月21日(土)より、「辻堂駅西口」を現在のバス停位置から駅舎よりの市役所辻堂駅前出張所入居予定ビル前に移設

松が丘コース

運行時間:7時~19時

運行本数:12本/日

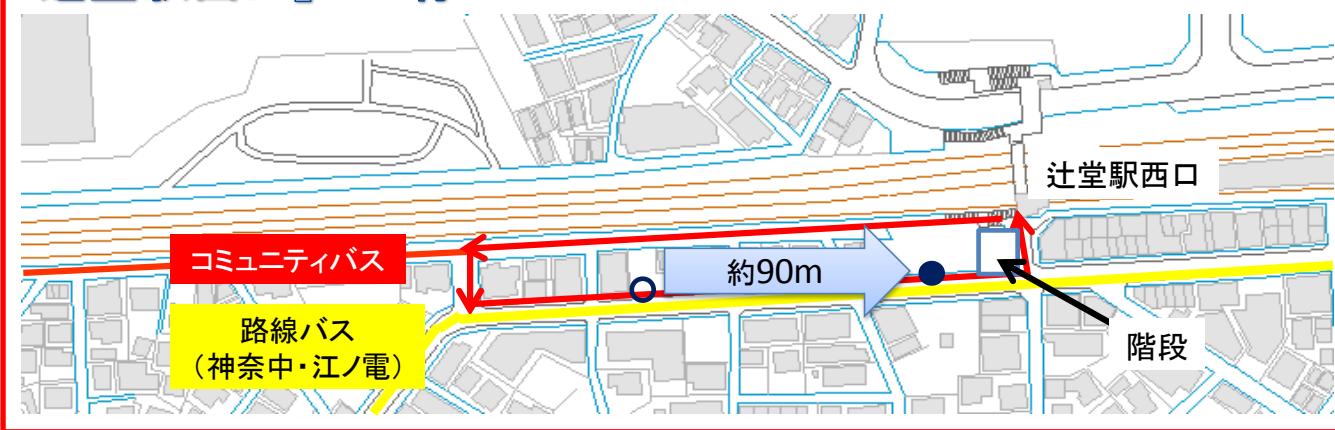
小和田・松浪コース

運行時間:7時~15時

運行本数:6本/日

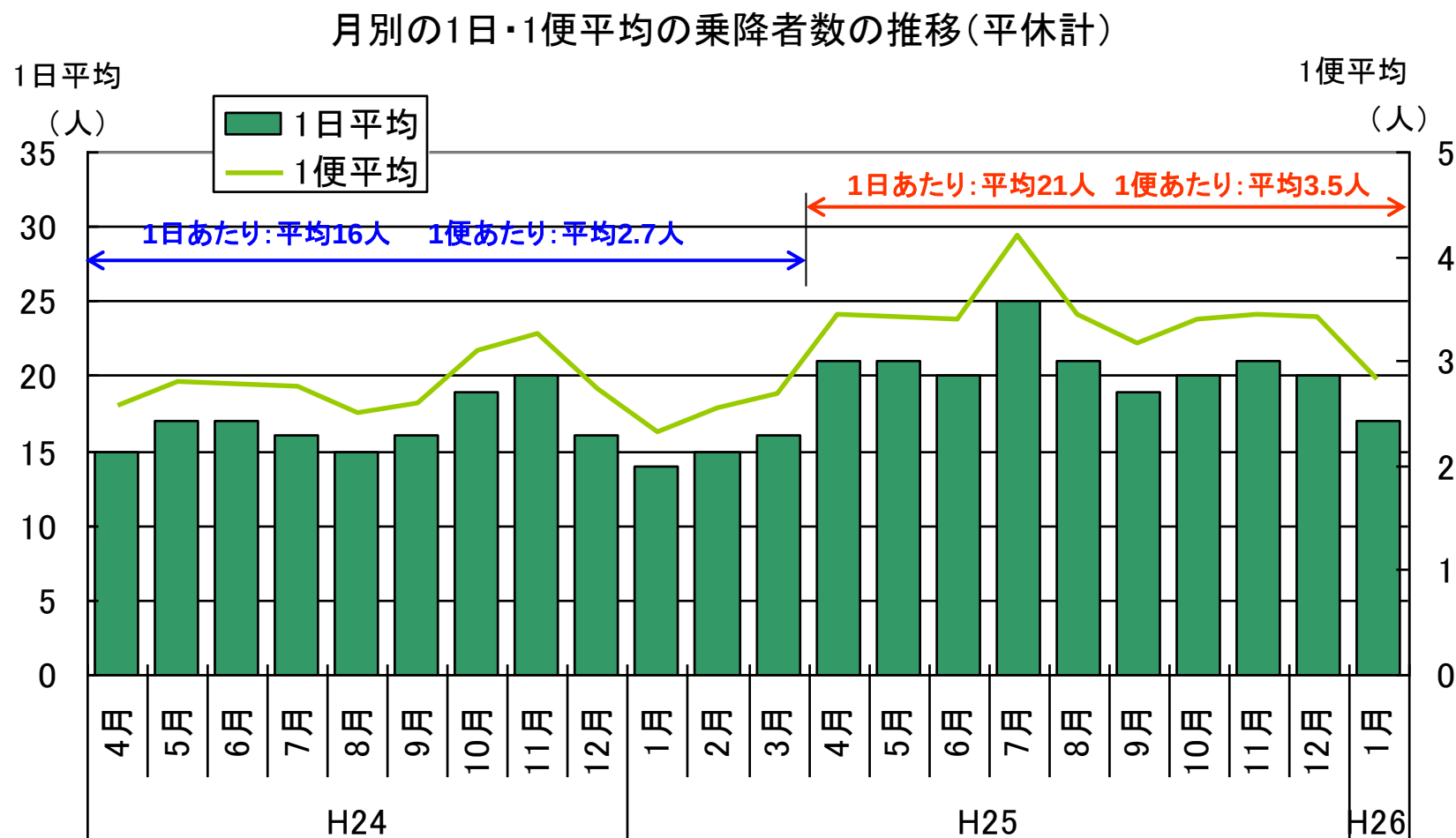


「辻堂駅西口」バス停



②ルート変更による乗降者数の変化

○最近一年間の利用者数の状況を見ると、辻堂までの延伸を行った平成25年4月以降では、乗降者数が1日あたりで5人程度、1便あたりで1人弱増加している。



③アンケート調査結果

●アンケート調査の実施

【アンケート調査の目的】

- ・平成25年3月31日から、辻堂駅までのルート延伸を行った「小和田・松浪コース」について、ルート変更から一定期間経過したことから、利用実態等を把握するために実施。

【調査概要】

アンケート方法	・バスへの乗り込みによるヒアリング調査
調査期間	・平成26年1月16日(木)、1月18日(土)
回収数	・回収票数:46票
設問項目	●アンケート調査の内容は平成25年5月～6月に実施したものと同じ ・個人属性(性別、年代、居住地) ・利用実態(利用時間、利用バス停、利用目的、利用頻度、利用のきっかけ) ・辻堂駅への延伸による影響(延伸前のアクセス状況、延伸前の交通手段、交通手段の変更理由、利用頻度の変化)

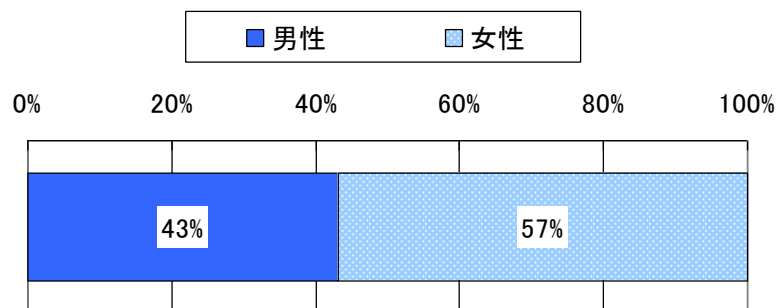
③アンケート調査結果

●アンケート調査結果

<回答者の属性>

〔性別〕

・女性の割合の方が57%である

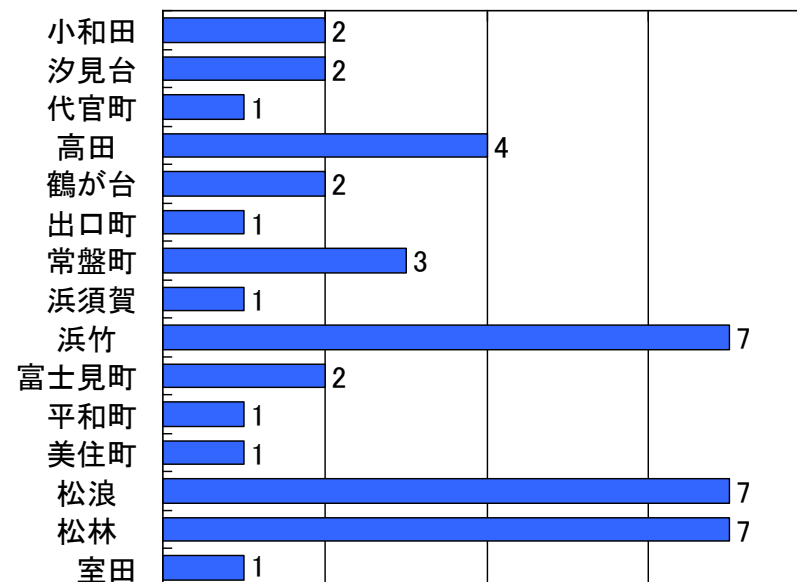
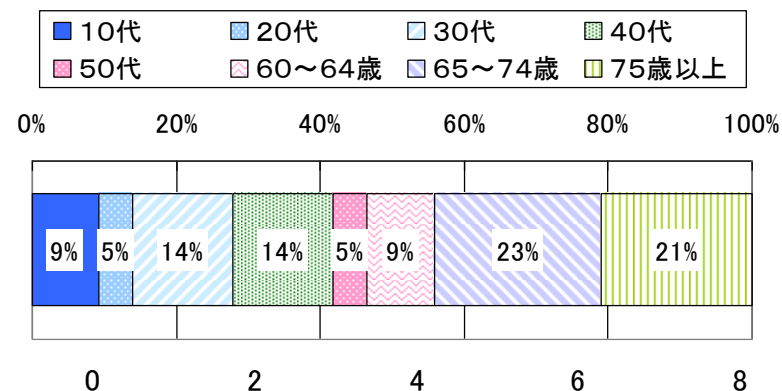


〔居住地〕

・浜竹、松浪、松林といった、路線沿線の居住者が多い

〔年齢〕

・60歳以上の方が53%と半数以上を占めている



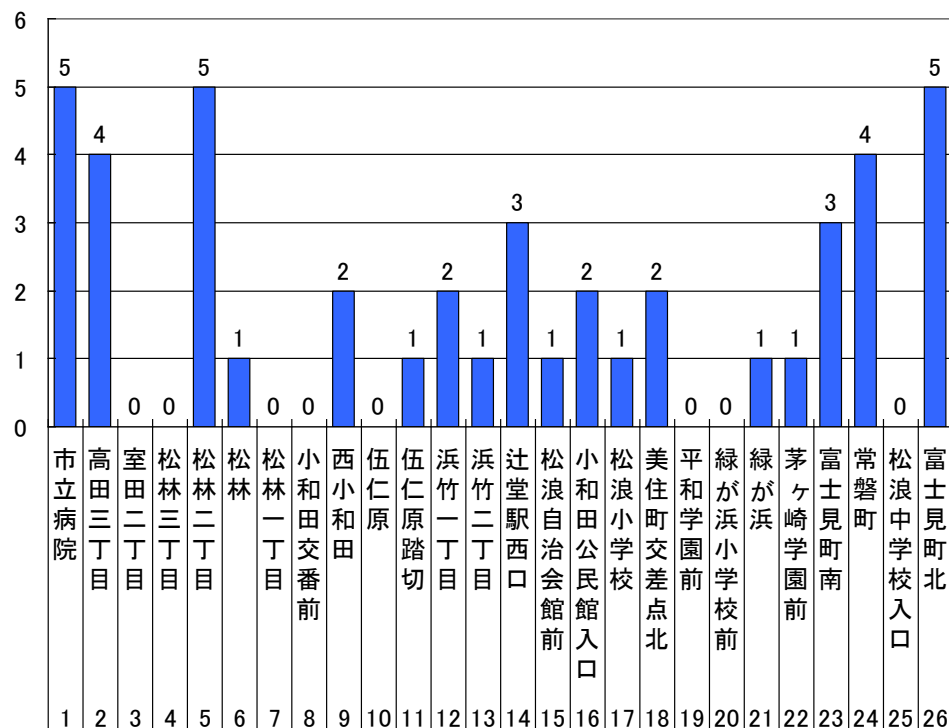
③アンケート調査結果

＜利用実態＞

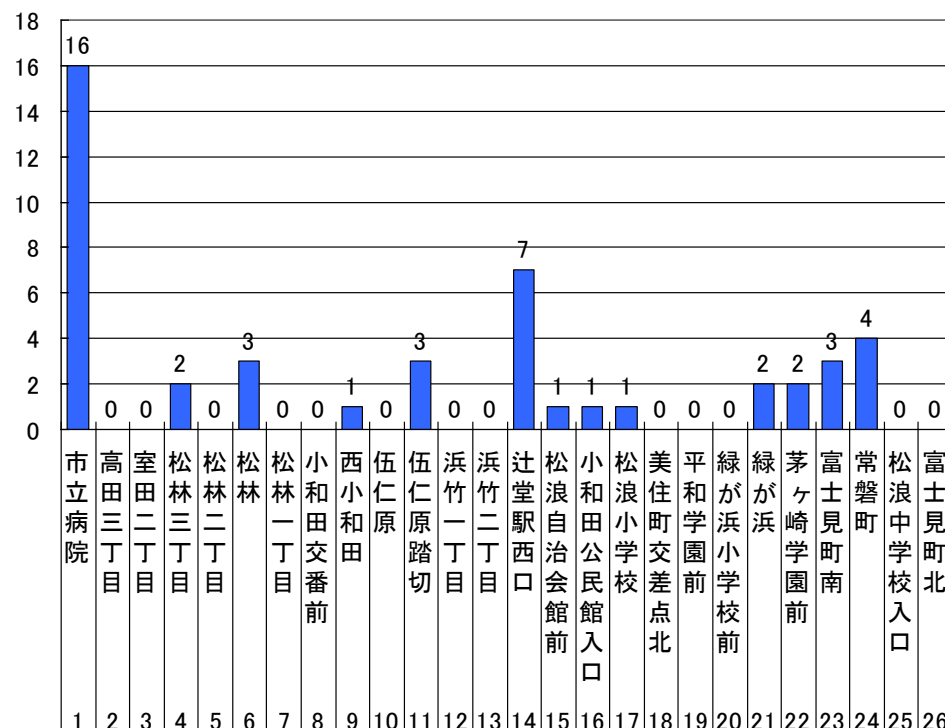
〔利用バス停の状況〕

- ・乗車バス停をみると、市立病院、松林二丁目、富士見町北が多く、次いで高田三丁目、常盤町となっている。
- ・降車バス停をみると、市立病院が最も多く、次いで辻堂駅西口となっている。

乗車



降車

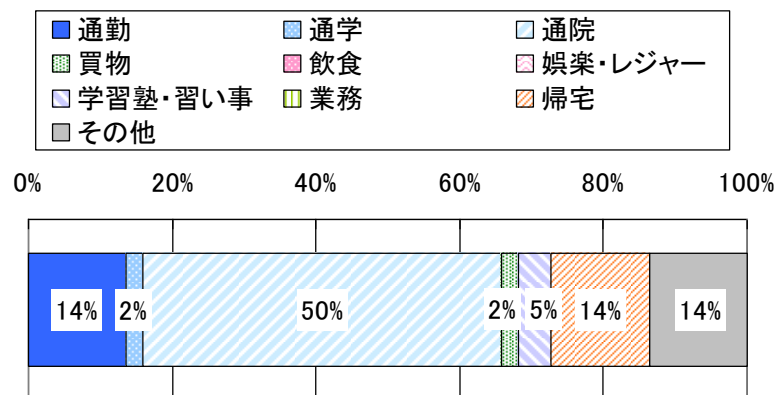


- ・バス停間ODの状況は、高田三丁目から常盤町が最も多くなっている

③アンケート調査結果

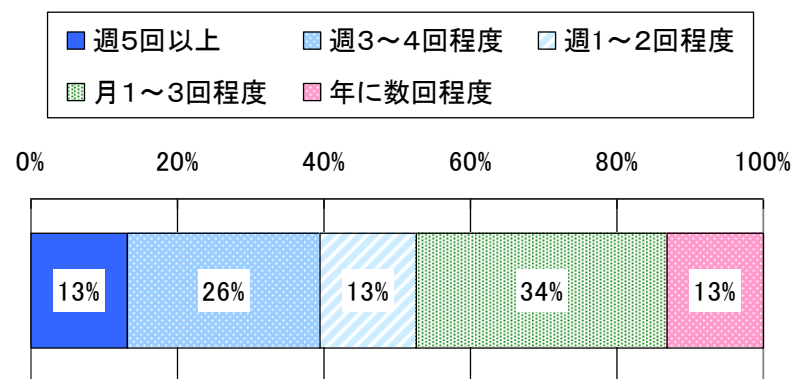
〔利用目的〕

- ・通院が最も多く半数を占めている。乗降バス停でみても、市立病院での乗降者が多いことから、病院への移動に利用されている割合が高いといえる。
- ・一方、通勤、帰宅目的での利用も14%みられる。



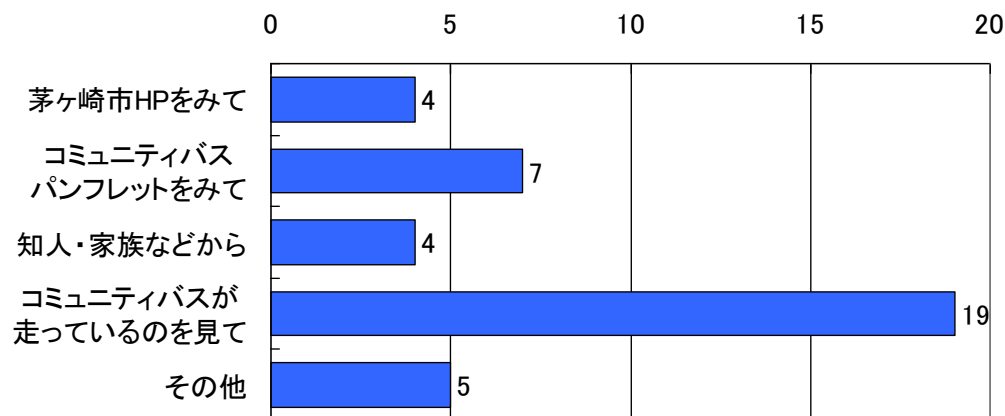
〔利用頻度〕

- ・月に1～3回程度と回答した割合が最も高く、34%である。週に1～2回以上利用している割合をみると、50%以上となっている。



〔利用のきっかけ〕

- ・「コミュニティバスが走っているのを見て」との回答が最も多く、19件となっている。次いで、「コミュニティバスパンフレットをみて」が7件と多い。

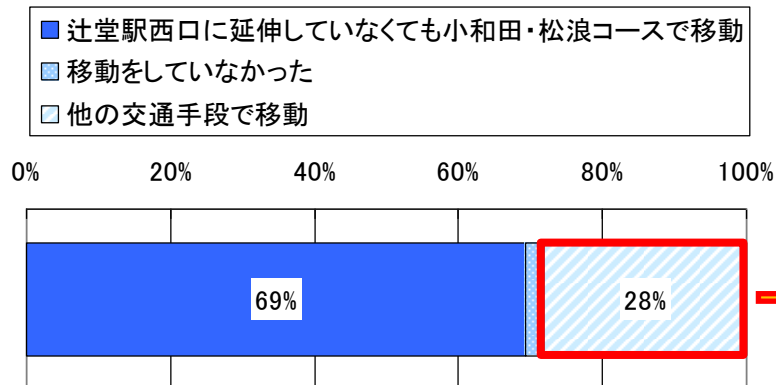


③アンケート調査結果

<辻堂駅への延伸による影響>

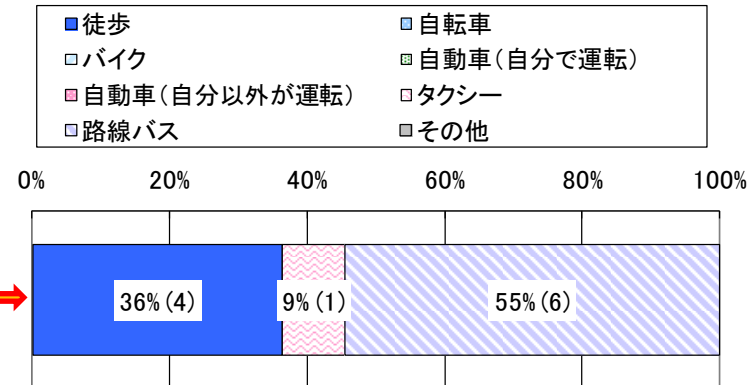
〔延伸前の辻堂駅までのアクセスの状況〕

- ・延伸以前も現在のコースを利用していたと回答した割合が69%、他の交通手段を利用していた割合が28%である。



〔以前の交通手段〕

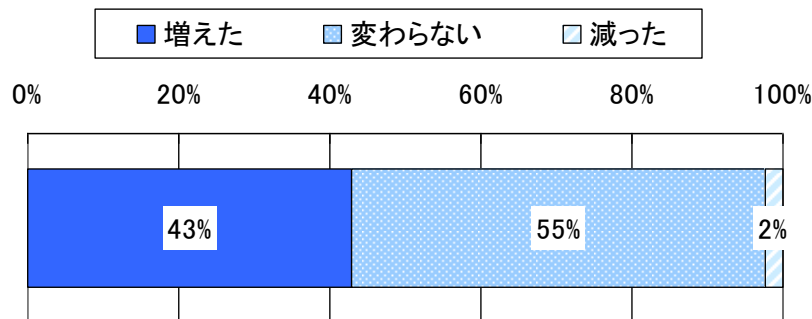
- ・路線バスを利用していた割合が最も高く半数以上を占めている。また、徒歩からの転換者も36%存在する。
- ・交通手段の変更理由は、「楽に行ける」、「自宅から近いため（今まで路線バスのバス停が遠かった）」等の回答が挙げられている。



※（ ）内は回答者数

〔利用頻度の変化〕

- ・辻堂駅まで延伸する以前の1年前と比べて、利用頻度が増えたと回答した人は43%である。

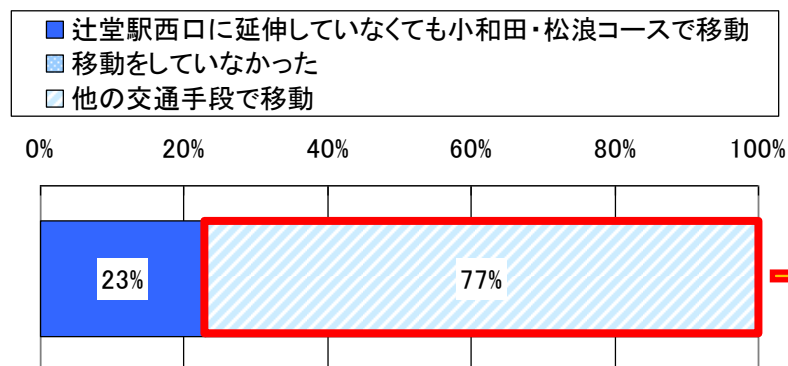


③アンケート調査結果

<延伸区間(伍仁原踏切～伍仁原踏切)利用者の回答結果>

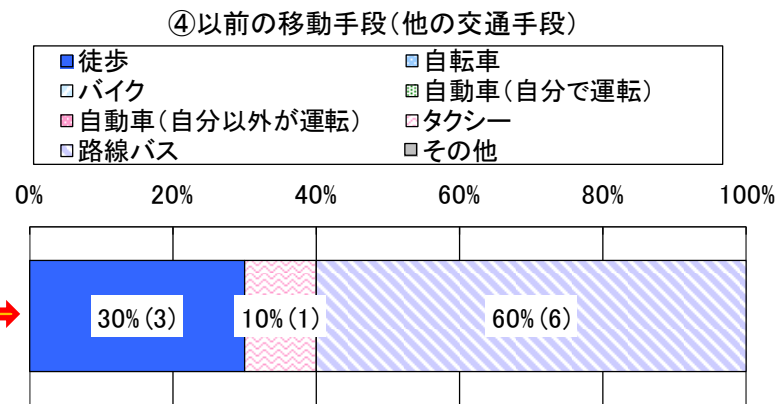
〔延伸前の辻堂駅までのアクセスの状況〕

- ・他の交通手段を利用して移動していたと回答している方が大半で、77%を占めている。



〔以前の交通手段〕

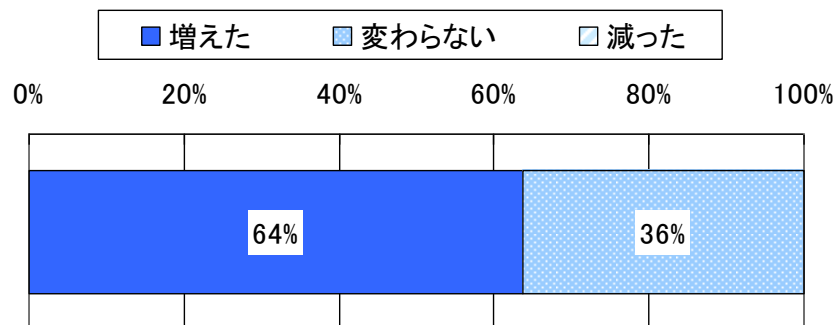
- ・路線バスが60%を占めており、次いで徒歩が30%である。
- ・交通手段の変更理由は、「楽に行ける」、「自宅から近い」ため(今まで路線バスのバス停が遠かった)等の回答が挙げられている。
- ・利用者全体での集計結果と大きな違いはみられない。



※()内は回答者数

〔利用頻度の変化〕

- ・64%の方が増加したと回答しており、利用者全体での集計結果と比べても多くなっている。



④今後の予定

- 今後も、乗降者数の状況や利用者の行動の変化等に加え、沿線市民へのアンケート調査によりニーズ等を把握する予定である。
- また、上記調査の結果を踏まえ、運行時間帯の再検討など、より利便性の高い運行を行うよう、調整等を進める予定である。

参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

●アンケート調査の実施

【アンケート調査の目的】

- ・平成25年3月31日から、辻堂駅までのルート延伸を行った「小和田・松浪コース」について、利用実態等を把握する。

【調査概要】

アンケート方法	・バスへの乗り込みによるヒアリング調査
調査期間	・平成24年5月28日（火）、6月15日（土）
回収数	・回収票数：31票
設問項目	・個人属性（性別、年代、居住地） ・利用実態（利用時間、利用バス停、利用目的、利用頻度、利用のきっかけ） ・辻堂駅への延伸による影響（延伸前のアクセス状況、延伸前の交通手段、交通手段の変更理由、利用頻度の変化）

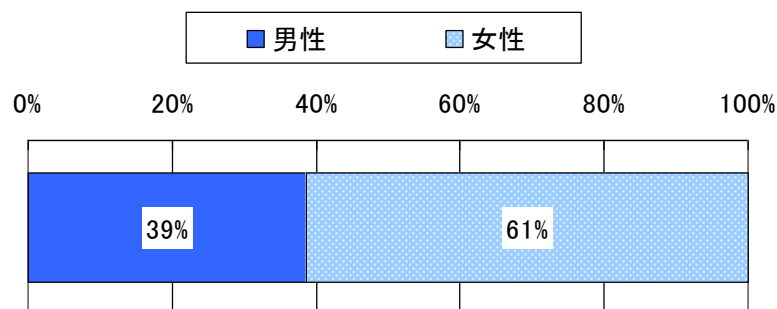
参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

●アンケート調査結果

<回答者の属性>

〔性別〕

・女性の割合の方が60%程度であり、北部循環北部循環市立病院線アンケートと比べると高い



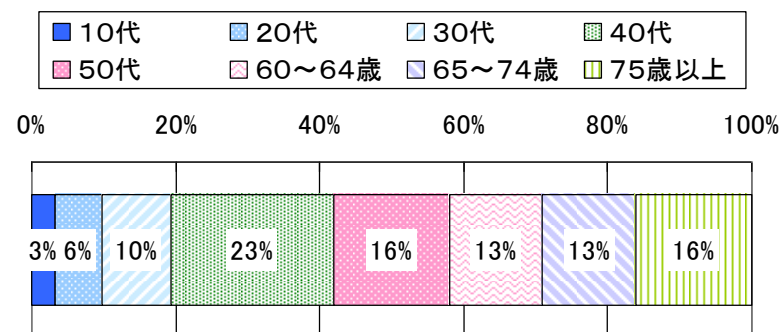
（H24年度北部循環市立病院線アンケート：女性51%）

〔居住地〕

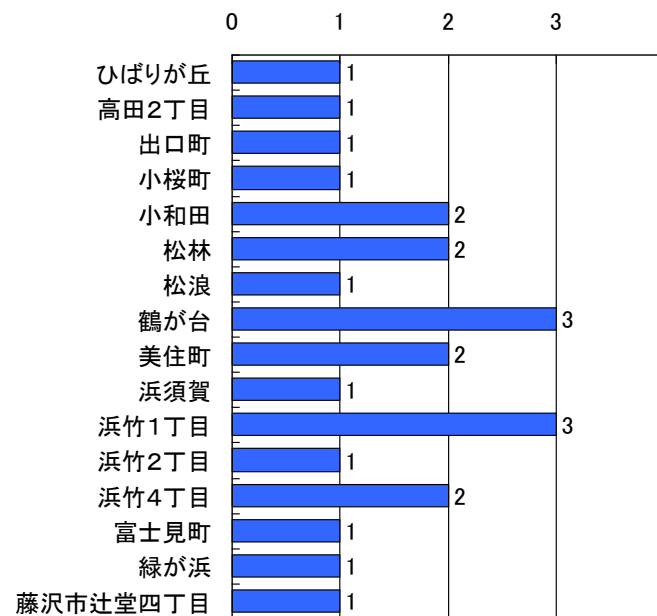
・茅ヶ崎市内が大半であり、また、路線沿線の方が多い

〔年齢〕

・60歳以上の方が40%程度であり、北部循環北部循環市立病院線アンケートと比べると低い



（H24年度北部循環市立病院線アンケート：60歳以上68%）



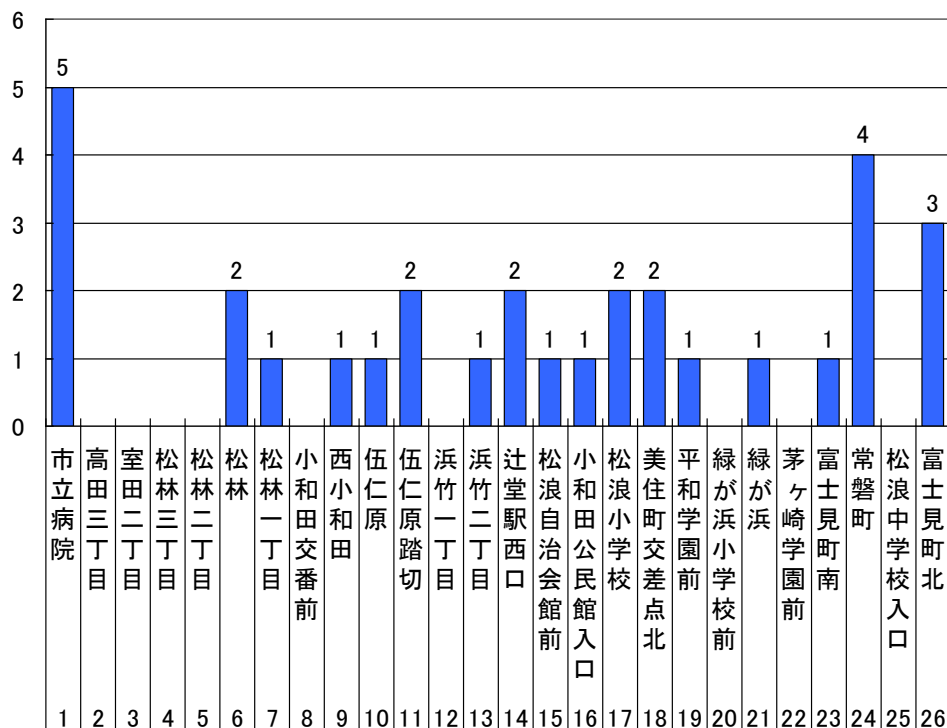
参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

＜利用実態＞

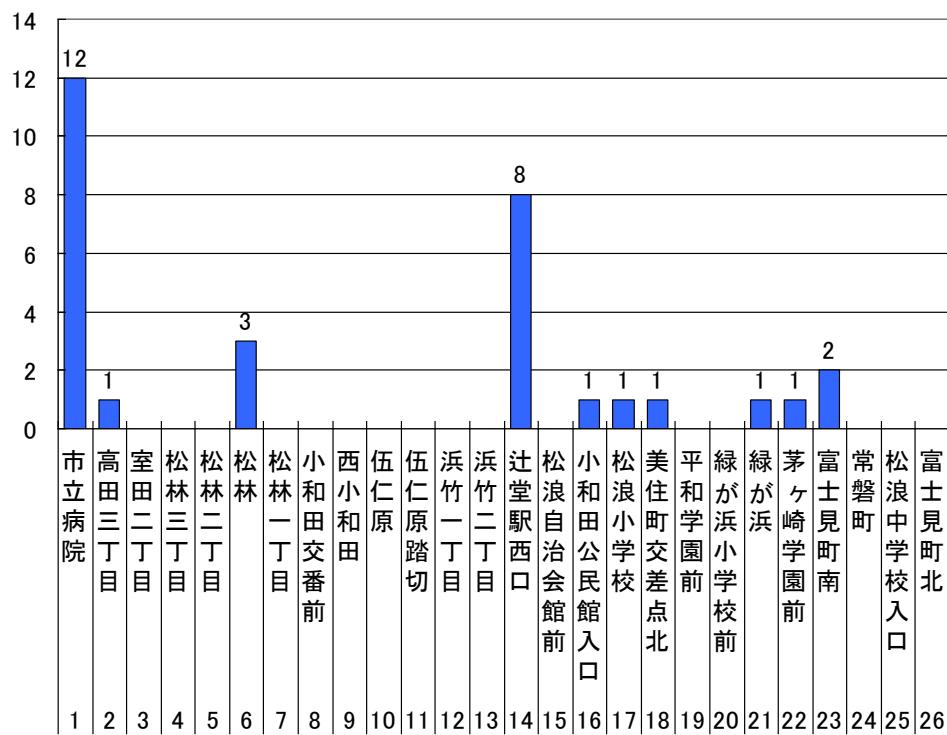
〔利用バス停の状況〕

- ・乗車バス停をみると、市立病院からの乗車が最も多く、次いで常盤町、富士見町北となっている。
- ・降車バス停をみると、市立病院が最も多く、次いで辻堂駅西口となっている。

乗車



降車

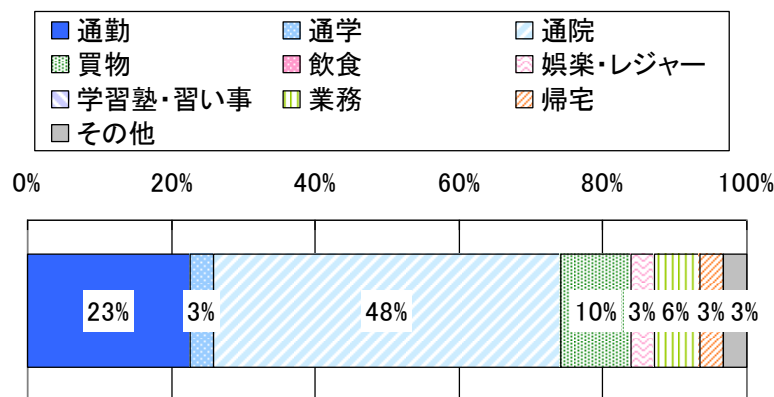


- ・バス停間ODの状況は、富士見町北から市立病院、常盤町から辻堂駅西口までのODが他に比べて多くなっている。

参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

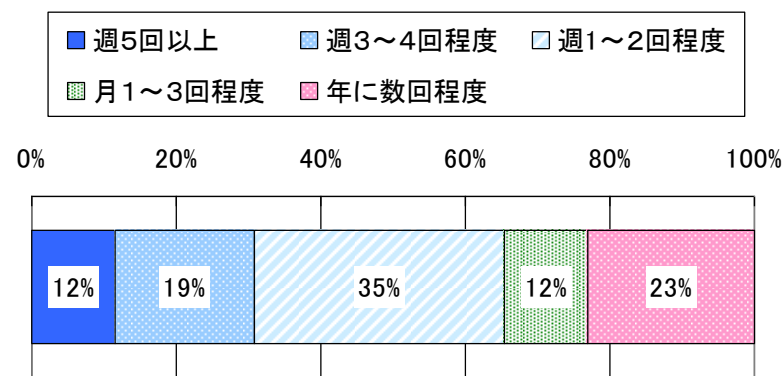
〔利用目的〕

- ・通院が最も多く半数程度を占めている。乗降バス停でも、市立病院での乗降者が多いことから、病院への移動に利用されている割合が高いといえる。
- ・一方、通勤目的での利用も20%程度みられる。



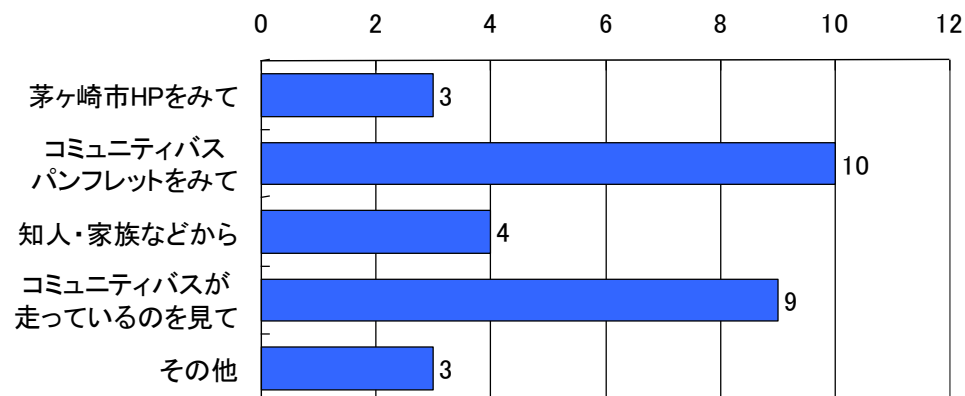
〔利用頻度〕

- ・週に1～2回程度と回答した割合が最も高く、35%である。週に1～2回以上利用している割合をみると、60%以上となっている。



〔利用のきっかけ〕

- ・「コミュニティバスのパンフレットをみて」との回答が最も多く、34%となっている。次いで、「コミュニティバスが走っているのを見て」が32%と多い。

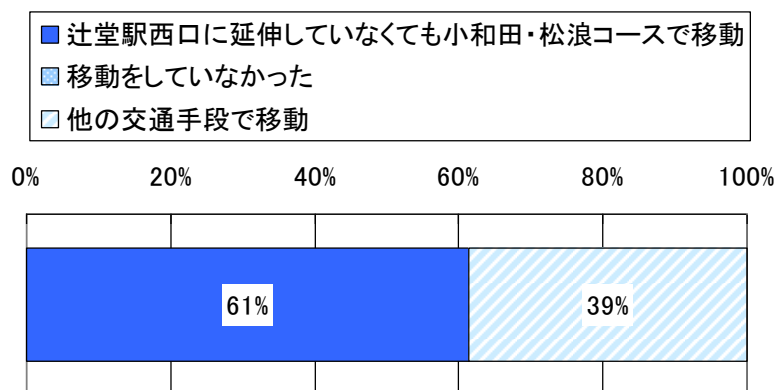


参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

＜辻堂駅への延伸による影響＞

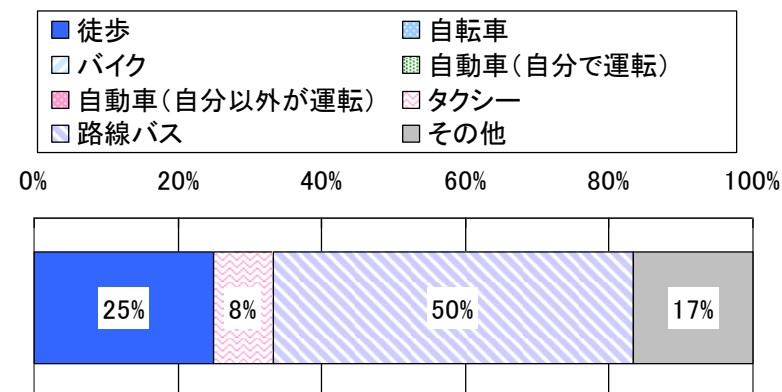
〔延伸前の辻堂駅までのアクセスの状況〕

- ・延伸以前も現在のコースを利用していたと回答した割合が約60%、他の交通手段を利用していた割合が約40%である。



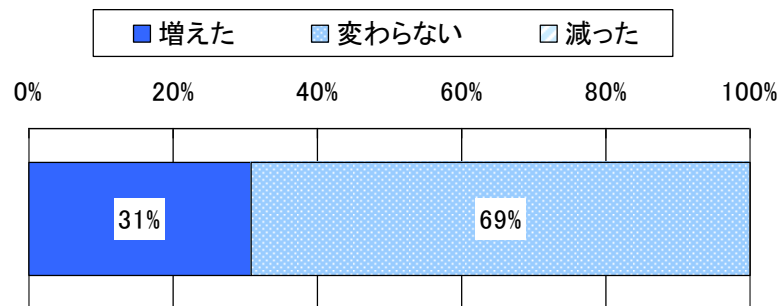
〔以前の交通手段〕

- ・路線バスを利用していた割合が最も高く半数を占めている。また、徒歩からの転換者も25%存在する。
- ・交通手段の変更理由は、「楽に行ける」との回答が最も多く、60%程度となっている。



〔利用頻度の変化〕

- ・辻堂駅まで延伸する以前の1年前と比べて、利用頻度が増えたと回答した人は約30%である。



＜増えたと回答した方の属性＞

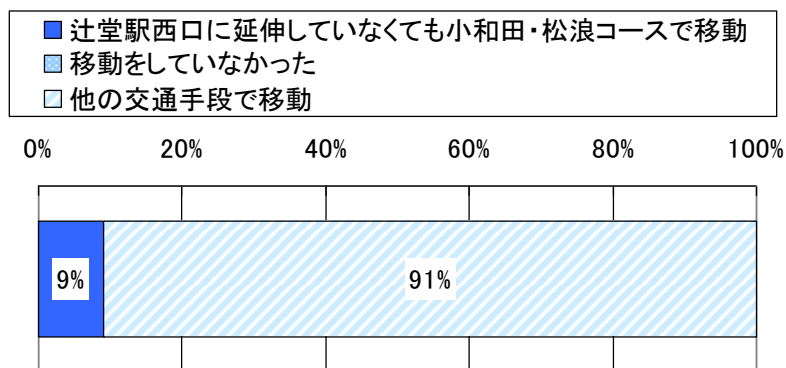
乗車場所	降車場所	性別	年齢
伍仁原	辻堂駅西口	男性	40代
伍仁原踏切	辻堂駅西口	男性	30代
西小和田	市立病院	男性	75歳以上
小和田公民館入口	市立病院	男性	50代
浜竹二丁目	高田三丁目	男性	40代
富士見町北	市立病院	女性	50代
辻堂駅西口	市立病院	女性	20代
市立病院	松林	女性	50代

参考：辻堂駅延伸時アンケート調査結果（前回調査）

＜延伸区間（伍仁原踏切～伍仁原踏切）利用者の回答結果＞

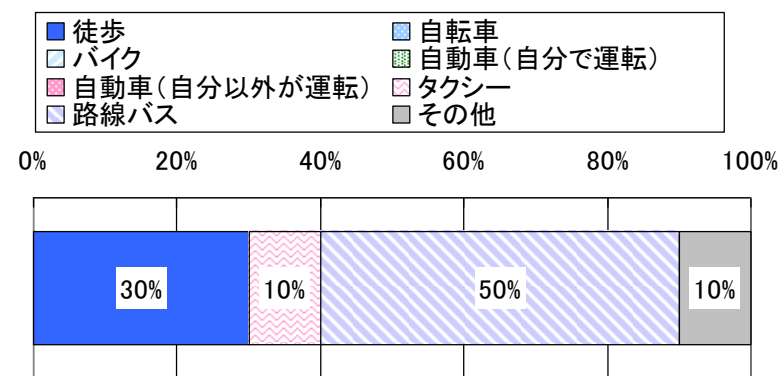
〔延伸前の辻堂駅までのアクセスの状況〕

- ・他の交通手段を利用して移動していたと回答している方が大半で、90%を占めている。



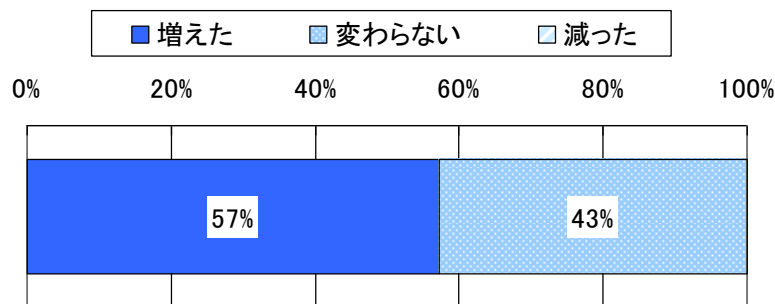
〔以前の交通手段〕

- ・路線バスが半数を占めており、次いで徒歩が30%である。
- ・交通手段の変更理由「楽に行けるから」との回答が60%である。
- ・利用者全体での集計結果と大きな違いはみられない。



〔利用頻度の変化〕

- ・60%近くの方が増加したと回答しており、利用者全体での集計結果と比べても多くなっている。



＜増えたと回答した方の属性＞

乗車場所	降車場所	性別	年齢
伍仁原	辻堂駅西口	男性	40代
伍仁原踏切	辻堂駅西口	男性	30代
浜竹二丁目	高田三丁目	男性	40代
辻堂駅西口	市立病院	女性	20代